

生きものシンフォニー

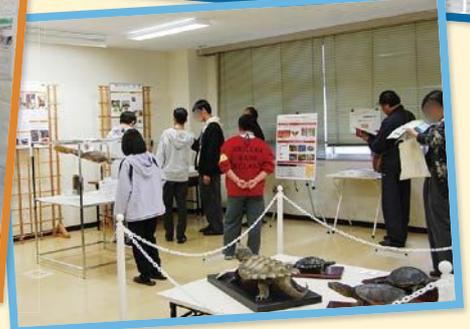
いのちがやくなごや

令和7年12月
47号

特集

第10回 なごや生物多様性センターまつり

11月8日（土）、秋晴れのもと「第10回なごや生物多様性センターまつり」が開催されました。会場となったなごや生物多様性センターに多くの来場者が訪れ、展示や体験を通して、生きものとのつながりの大切さを楽しく学びました。同時開催の「生物多様性ユースひろば」では、中高生が日ごろの活動や研究の成果を発表。来場者からの質問に熱心に答える姿が見られました。



同時開催 生物多様性ユースひろば

CONTENTS

特集

第10回 なごや生物多様性センターまつり P1~4

同時開催 生物多様性ユースひろば

- TOPICS なごや生きもの一斉調査2025 ~カエル編~ P5
- 活動紹介 愛知県立古知野高等学校福祉ボランティア部環境社会班 P6
- 掲 示 板 令和8年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集 P6



第10回 なごや生物多様性センターまつり

今年のセンターまつりには、43団体が参加。多くの生きものや自然に親しみ、生物多様性を楽しく学ぶ機会となりました。中でも、ビオトープツアー、外来種のブラックバスの試食、ワークショップは、家族連れに大人気で長蛇の列ができていました。

なごや生物多様性センターの展覧内容



なごやナチュレ（ミニ博物館）、なごやリウム（ミニ水族館）、センターブース「なごやの河川の生きもの」の展示のほか、ビオトープツアーを行いました。



各ブースを巡ってキーワードを完成させると、生きもの缶バッジをプレゼント。大人から子どもまで多くの来場者がチャレンジしていました。

生きもの缶バッジ
GETだぜ!



ミニ博物館～なごやナチュレ～



センターに収蔵されている約2万点の標本の中から、選りすぐりのものを展示。市内の里山に生育・生息する生きものや外来魚類・カメ類に関する展示がありました。普段は間近で見る機会の少ないはく製をじっくり鑑賞することができ、大変にぎわいました。



ミニ水族館～なごやリウム～



名古屋市には、大小あわせて約60の河川と約100のため池があります。そこに暮らすさまざまな水生生物を各環境ごとに展示。各水槽ではご来場の皆さんが種類ごとの特徴について書かれた「解説シート」を手にして、混泳する魚類の中からお目当ての魚を探していました。市内の絶滅危惧種の観察もできました。



なごやの河川の生きもの
なごや生物多様性センター



所属や名前が変わるタカ
日本ワシタカ研究センター



なごやの陸産貝類の多様性
名古屋市立大学生物多様性研究センター



発見! なごやのプランクトンたち
名古屋市環境科学調査センター



名古屋の秋を彩る昆虫たち
名古屋昆虫同好会



外来種ブラックバスの試食コーナー
なごや生物多様性保全活動協議会
(なごビオ)



名大生研と「生き物博士」になろう!
名古屋大学生物研究会



研究室の活動紹介
四日市大学 野生動物保全学研究室



ぼくらと、カエルと、多様性。
～カエルから生物多様性を学ぼう!!～
株式会社 地域環境計画 名古屋支社



不思議なクモたち
中部蜘蛛懇談会



猫のことを考えよう。
名古屋市動物愛護センター



剪定枝、刈草を原料に堆肥を
製造しています
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会

ビオトープツアー



2022年に整備されたなごや生物多様性センターのビオトープは、水辺にエノキとコナラの木のみを植えた状態から始まりました。今では自然に入り込んだ植物や土の中にあった種子が発芽し、様々な生きものが見られる豊かな環境になっています。ツアーでは職員が水の循環や生きものの暮らしを解説し、都会の中で命が息づく仕組みを紹介しました。哺乳類の痕跡やオオカマキリの卵を見つける場面もあり、参加した親子に笑顔が広がりました。全3回、各回15名の定員はすべて満員となる盛況ぶりでした。

なごや生きものトーク

アウトドアタレント 鉄崎幹人さん



なごやの自然をテーマに、鉄崎幹人さんが身近な生きものを環境のバロメーターとして紹介。クマゼミの増加や南方系の生きものの北上、庄内川のジジミの味から見える水質汚染など、生きものが環境の「語り手」であることを実感する講演となりました。質疑応答では水生昆虫の話題も飛び交い、参加者の関心の高さがうかがえます。「まず目を向けること、そして声を上げることが大切」とのメッセージが心に残りました。



名古屋港の生きものたち
名古屋港水族館



守ろう!つなげよう!東山の森
NPO法人なごや東山の森づくりの会



渡り鳥が再来するごみのない
猫ヶ洞池にしよう!!
ライオンズクラブ国際協会
334-A地区7R3Z



みつばちと命のサイクルから学ぶ!
~ BeeHappy∞Project ~
地球ハグ倶楽部



見て・さわって・あてろ!
いきものミッション
命をつなぐPROJECT学生実行委員会



天白の自然を知ってみよう!
天白・もりのフォーラム



みんなでやろまい!!なごやの森づくり
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会



ふれてみよう!つなげよう!なごやの自然
名古屋自然観察会(愛知県自然観察指導員
連絡協議会名古屋支部)



はじめようデコ活!
環境にいいコトさがし
名古屋市環境局脱炭素社会推進課



みんなで目指そう!!
「ネイチャーポジティブ」
名古屋市環境局環境企画課



グッドな選択で食品ロスにグッドバイ!
グッドバイ食品ロスなごや
なごや資源循環実行委員会/
名古屋市環境局資源循環推進課



「人と自然が共生するあいち」を目指そう!
愛知県環境局自然環境課



エコパルなごや出張ワークショップ
環境学習センター エコパルなごや
(名古屋市環境局環境企画課内)



藤前干潟ふれあい事業のご紹介
藤前干潟ふれあい事業実行委員会
(名古屋市環境局環境企画課内)



なごやの宝~藤前干潟~
NPO法人藤前干潟を守る会
(稲永ビジターセンター・藤前干潟活動センター)



石膏の科学
~化石風アロマストーンを作ってみよう~
henka.



ビオトープツアー
なごや生物多様性センター



Shall we MOSS!コケしませんか!
苔むす会



チリメンモンスターをさがせ!
「あいちの海」グリーンマップ



みんなで守ろう!なごやの生きものたち
なごや生物多様性保全活動協議会
(なごビオ)

同時開催 生物多様性ユースひろば

学生たちが日ごろの活動を紹介した「生物多様性ユースひろば」、今年は14校が参加し、来場者と交流を深めました。

愛知県立佐屋高等学校 科学部



草木染めや昆虫採集、米づくり体験など自然教室の活動に加え、ナゴヤダルマガエルの保全に向けた水田管理の研究成果をパネルで展示。農業科のある高校ならではの取り組みが、注目を集めました。

名古屋経済大学市邨中学・ 高等学校 科学部



校内での生きもの調査報告、オカメインコの羽根を顕微鏡で観察する体験やストラップづくりのワークショップを実施。鳥・猫絵柄の特製ティッシュも配布し、自然の魅力を伝えました。

名城大学附属高等学校 自然科学部



庄内川の生態調査や駆除された生きもののはく製・骨格標本を展示。肉食動物と草食動物の違いを歯や骨格から丁寧に解説し、来場者に自然の奥深さと多様性の魅力を伝えていました。

愛知県立古知野高等学校 福祉ボランティア部環境社会班



愛知県の絶滅危惧種「カワラサイコ」の保全活動を紹介。河原での保護や校内栽培などの様子を来場者に伝えました。子ども向けにはカワラサイコ缶バッジ作り体験を行い、好評を得ていました。

名古屋市長台高等学校 天文部生物班



天白川などでの水質・生態調査の成果や採集したトンボの標本を展示。環境科学調査センターとの連携による専門的な手法を取り入れた分析内容に、来場者からは質問が寄せられていました。

南山高等学校・中学校男子部 理科部生物班



愛知県の多様な生態系を知ってもらうことを目的に、身近な川に住む淡水魚や水生昆虫を展示。特徴や外来種問題を紹介しました。希少な二ホンナギやアユカケの展示もあり、来場者は興味津々でした。

名古屋市立向陽高等学校 科学部



ミドリムシの光条件による生態変化、アシダカグモの棘の役割と仕組み、イシクラゲの窒素吸収能力を高める培養と、3つの班が研究成果を発表。各班が工夫を凝らした展示や説明を行っていました。

愛知県立愛知総合工科高等学校 理工探究部 いきものがかり



藤前干潟で海水や生物を採取し、目には見えないナノプラスチックの検出を目指して取り組んだ調査・分析の内容を紹介しました。メンバーは「生態系への影響を明らかにしたい」と語っていました。

大同大学大同高等学校 自然科学部



もともと同一種だったキンギョとフナが、交雑や突然変異でどのように多様化したかを紹介。両者の共通点と相違点をイラストでわかりやすくまとめ、進化の面白さを伝えていました。

名古屋大谷高等学校 化学部



二ホンイシガメの飼育環境を改善するため「カメハウス」を製作。快適に暮らせる工夫や改造の過程をポスターで紹介し、活動を通じて生態理解とチームワークの大切さを伝えていました。

東海中学校・高等学校 生物部



魚班・虫班・両生爬虫類班が1年間の活動成果を報告し、飼育中の生きものや標本を展示。外来種や温暖化など環境変化が生きものに与える影響についても来場者に訴えていました。

名古屋経済大学高蔵高等学校・ 中学校 理科部



山崎川周辺で毎月続けている清掃活動と外来種駆除を目的とした生物調査を紹介。活動を通じて川に生息する多様な水生生物や、地域の環境保全に向けた取り組みの重要性を伝えていました。

愛知県立瑞陵高等学校 理科科



二ホンカナヘビの頭部から腹部にかけての模様を観察し、東海地方における特徴を調査。模様の多様性から新たな分類の可能性を探る研究を報告し、広く情報提供を呼びかけていました。

栄徳高等学校 生物部



学校周辺や合宿先で採取した生物の標本を展示。哺乳類の頭骨標本や剥製に加え、モグラ類や豊田市で確認された二ホンカモシカの情報も紹介し、身近な自然の奥深さを伝えていました。



ステージ発表しました。

講師：名古屋工業大学 増田 理子 教授

ユースひろば14校のうち、5校が日ごろの活動内容や成果を披露。生きものへの探求心あふれる発表に会場からは大きな拍手が贈られました。

- ・愛知県立古知野高等学校 福祉ボランティア部環境社会班
- ・名古屋市立向陽高等学校 科学部
- ・愛知県立愛知総合工科高等学校 理工探究部 いきものがかり
- ・名古屋大谷高等学校 化学部
- ・栄徳高等学校 生物部

なごや生きもの一斉調査2025 カエル 編



準備を整えていざカエル観察へ（猪高緑地）

なごや生物多様性保全活動協議会(なごビオ)主催の「なごや生きもの一斉調査」が、5月1日～6月30日に開催されました。今年のテーマは「カエル」。カエルを見つけたら個人のスマートフォンで鳴き声を録音したり、写真を撮ったりして、位置情報とともに記録するという方法で調査を行いました。

カエル観察会を実施

身近な自然や生きものに関心をもってもらうため、調査期間中になごビオ会員の協力を得て、緑地や水田でカエル観察会を9回開催し、のべ52名の方にご参加いただきました。

講師からカエルの特徴を種類ごとに解説してもらいながら、実際にカエルを観察しました。

水が張られた水田ではカエルが集まって一斉に鳴き始めており、カエルを見慣れていない子どもたちからは、「今のは何かカエル?」、「トノサマガエルじゃないの?」などと歓声があちらこちらで上がっていました。

カエルは身の危険を感じると素早くジャンプするため、驚かせないようにそっとカエルに近づき、ズームで写真を撮ったりして観察しました。

参加された方からは、カエルだけでなく緑地で観察できる植物や鳥についても説明を聞くことができ、親子で楽しめたとの声をいただきました。



カエルがいたよ!
分かるかな?



ほらあそこ!
カエル見つけたよ!



大きなカエルが
いたよ!

カエルの鳴き声や写真をもとにした調査

カエルは身近な生きものですが、市全域の生息状況を調べることは簡単ではありません。しかしながら、近年市内において、ヒガシホンアママガエルの生息場所が減少しており、生息が危ぶまれているのではないかと懸念がありました。そこで今回は何とかしてカエルの生息状況を把握するための調査を実施しようということになりました。

これまでの一斉調査では生体を採集する形で実施することが多かったのですが、第14回となる今回は生体を採集せず、5月1日～6月30日までは参加者の皆さんがスマートフォンを用いて、それぞれ好きな場所で記録したカエルの鳴き声や写真を報告してもらいました。また、7月1日～31日まではデータ不足の地域などを中心になごビオ会員が追加調査を行いました。これらの集めたデータを後日解析し、カエルの種類を判別するという方法で実施しました。

合計で478地点からの情報が寄せられ、303地点でカエルが確認されました。名古屋市内には11種類のカエルが生息しているとされていますが、今回の調査ではそのうち10種類が確認されました。調査のきっかけとなったヒガシホンアママガエルの投稿が一番多く、ありがたい結果でした。

今回の調査において市民の皆さんの協力が得られたことで、市内の生息状況の把握に大きく貢献することができました。

詳しい調査結果については、今後まとめて報告する予定です。

参加者に
投稿していただいた
カエルたち

ヌマガエル



ヒガシホンアママガエル

福祉ボランティア部環境社会班は、愛知県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている在来植物「カワラサイコ」を守る活動を続けています。愛知県ではかつて木曽川の河原に多く生育していたカワラサイコですが、現在は江南市を流れる木曽川南派川の一部でしか確認できません。この生育地は、愛知県内でカワラサイコが生存する「唯一の砦」のような存在となっており、生徒たちは「この花を守りたい」との思いから、昨年本格的に活動を始めました。

主な取り組みは、カワラサイコの生育を妨げる特定外来生物オオキンケイギクの駆除です。毎月河川敷に足を運び、駆除と観察を継続しています。さらに、生育地外での保全にも挑戦し、6月には校内のプランターでカワラサイコの開花に成功しました。生徒から「自然に触れるっていいなと思ったり、



校内で花が咲いたりした時は本当にうれしかった」という声も聞かれました。今後はカワラナデシコなどとともに「カワラ姉妹の楽園」を校内に作る計画です。

広報活動にも力を入れています。アンケート調査で若い世代の認知度が低いことが分かり、地元企業と連携して小学生向けの環境学習会を開催。クイズや缶バッジ作りを通じて、楽しみながら外来種問題を学べる工夫をしています。「こういうかわいらしい花が咲いていることをもっと知ってほしい」と生徒たちは語ります。

また、活動で得た知見を広げるため、この夏には佐藤小春さん、嶋田陽奈さん（ともに3年生）が高校生ボランティア・アワードに出場しました。全国の高校生と交流し、環境問題だけでなく、SDGsに関連する世界のさまざまな問題について知ること、[知見や視野が広がった]と話してくれました。



掲示板

令和8年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金
助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の“後継者育成を目的とする活動”を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。

令和8年1月5日から2月4日まで、令和8年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。

協議会ウェブサイト



<https://bdnagoya.jp/>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー

検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式サイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄
塩釜口駅2番
または
3番出口から
徒歩5分

